

第168回老年学・老年医学公開講座

新常識!?

令和6年

1月26日 **金** 13:15~16:00



脳疾患の最新治療と

申込不要・入場無料

当日先着 1,200人

手話通訳あり

講演1 13:30~14:00

脳卒中に対する脳神経外科治療とその進歩

東京都健康長寿医療センター脳神経外科 医長(診療科長)

小原 健太



講演2 14:00~14:30

水頭症かもしれません

~ふらつく・ぼんやりする・トイレに間に合わない~

東京都健康長寿医療センター脳神経外科 専門部長

高梨 成彦



講演3 14:45~15:15

脳神経疾患のリハビリテーション

東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 専門部長

加藤 貴行



15:30~16:00 質疑応答

司会 東京都健康長寿医療センター 副院長 原田 和昌

会場 板橋区立文化会館 大ホール

主催 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター

共催 東京都板橋区



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

総務係広報担当

03-3964-1141 (内線1240)

ホームページ <http://www.tmg Hig.jp/>

定員に達した場合はご入場いただくことができませんので、ご了承ください。

詳細はこちら



新常識!?脳疾患の最新治療とリハビリテーション

東京都健康長寿医療センター 副院長 **原田 和昌**

日本人の健康寿命は男性72.68歳、女性75.38歳と世界一です。その健康寿命を規定する、介護が必要になった原因は「認知症」が18.1%、次いで「脳血管疾患(脳卒中)」15.0%、「高齢による衰弱」13.3%の順です。認知症の新薬が認可されようやく光が見えてきましたが、新薬を使える人は約1%程度しかいません。一方で脳卒中の急性期治療や外科治療が近年急速に進歩してきました。また、認知症と考えられていた人に水頭症の診断がつけば、手術でかなり良くなります。さらに、脳卒中を起こしてしまった時には早期にリハビリテーションを開始することが大切です。今回は健康寿命を延ばすための脳疾患の治療について、3人の先生がお話します。

講演1 13:30~14:00

脳卒中に対する脳神経外科治療とその進歩

東京都健康長寿医療センター脳神経外科 医長(診療科長)

小原 健太



脳梗塞や脳出血に代表される脳卒中は、高齢者寝たきりの原因第一位です。今後日本が直面する超高齢化社会において、医療ニーズが高い病気です。一方で、脳卒中に対する脳神経「外科」治療についてはあまり馴染みがないと思います。脳卒中治療の進歩も踏まえて解説します。

講演2 14:00~14:30

水頭症かもしれない

～ふらつく・ぼんやりする・トイレに間に合わない～

東京都健康長寿医療センター脳神経外科 専門部長

高梨 成彦



水頭症はだんだん歩きにくくなります。尿が近くなり、ぼんやりしてきます。まるでただ年老いてしまったようです。でも水頭症なら手術で治療できます。介護するかたは少し楽になるかもしれません。転んで大ケガをする前に受診してみましょう。

講演3 14:45~15:15

脳神経疾患のリハビリテーション

東京都健康長寿医療センターリハビリテーション科 専門部長

加藤 貴行



脳卒中はできるだけ早く治療を始めることが必要ですが、同様にリハビリテーションも急性期から開始することが大切です。脳卒中を中心とした脳神経疾患のリハビリテーションの実際についてお話します。



会場 板橋区立文化会館 大ホール
東京都板橋区大山東町51-1

最寄駅 東武東上線 大山駅 北口・南口徒歩3分
都営三田線 板橋区役所前駅 A3出口徒歩7分

地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター

総務係広報担当

03-3964-1141 (内線1240)

ホームページ <http://www.tmghig.jp/>

定員に達した場合はご入場いただくことができませんので、ご了承ください。

詳細はこちら



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。